

平成23年度 国際文化学部学位記授与式挨拶

2012年3月21日 国際文化学部長 岩野雅子

国際文化学科のみなさん、文化創造学科のみなさん、あらためましてご卒業おめでとうございます。明日からは、それぞれが選んだ場所で、一人一人の人生に向かって歩いていけます。

国際文化学科生でもなく、文化創造学科生でもなく、社会人1年生としての新たな一歩の始まりです。みなさんが、社会人2年生、社会人3年生と進んで行かれ、やがて、社会人何年生と言われることもなくなり、人生の先輩として社会人1年生や2年生たちを迎え、選び、育てる側に回る日を迎えられるよう、私たち教員一同、心から応援しています。

みなさんは、大学4年間の学びを通して、自分もっている力が何であるかを知っています。反対に、どんな力がまだ足りないか、どんな力をもっていないかも知っていると思います。でも、本当にそうでしょうか？「今さら、無理」「どうせダメ」「そんなことはできない」。そういった言葉を使って、「自分」の中にある可能性を伸ばさないままでできてしまったということはないでしょうか。

人生80年といわれる今日。その1/4の二十数年間にやってきたことだけで、自分の一生をイメージするような時代ではありません。今日は、「リセット」の日。「reset」とは、物事を白紙にすることでもなく、振り出しに戻ることもなく、ゼロから始めることでもありません。

「re-set」。目標やターゲットとなるものを、再び、設定し直すこと。自分の力をさらに伸ばすための学びや経験の蓄積を目指して、あるいは、今までやってきたことのない領域でのチャレンジを目指して、みなさんに与えられたこれからの人生という長い時間を、最高に楽しんでください。

大学生活の、この最後の一年間に、みなさんは卒業論文や卒業制作などに取り組みました。辛く、苦しい時があったかもしれませんが、だからこそ、最高に楽しかったのではありませんか？みなさんは、何もしない一年よりも、一気にエネルギーを投入する1カ月のほうが、時間は「長い」ということを知っています。「長い」とは、「ものすごくたくさんの方ができる時間となる」という意味です。そういう時間の持ち方を知っているみなさんは、まだまだ自分を伸ばすことができる。今日という日を、自分の次なるゴールに向かって自分を re-set する大切な日としていただければと願っています。

国際文化学部生のイメージは、タンポポです。これから、みなさんは、それぞれの空に向かって飛び立ち、別々の場所に根を下ろしていかれます。その場所で、まわりを温かく、明るくしていく

大切な人間として、輝いていかれるよう祈っています。

国際文化学部同窓会 ikaのご案内は、学部ホームページにあります。Facebookの「県大国際」でぜひ友達リクエストをしてください。ぜひ、これからも、Facebookを通して、また、実際のface-to-faceでお会いし、近況報告を交換することができるよう、ご参加をお待ちしています。

最後に、新しいニュースを2つお知らせしたいと思います。

一つ目は、この3月に、国際文化学科では「フィールドワーク実践論」のテキストを、また、文化創造学科企画プロデュース系では「基礎演習」のテキストを発行したというニュースです。関係する方にはお手元に届いていますので、先生方からはなむけの言葉として、ぜひ読んでみてください。また、文化創造学科日本文化系では、「やまぐちの歴史と文化」のテキストを昨年発行していますので、こちらに関係する人は授業ですでに購入しておられると思います。これらのテキストを大切にいただければ幸いです。

二つ目は、6年後の平成29年までに、国際文化学部がこの新キャンパスに移転してくるための基本設計が始まるというニュースです。何も無いところに線を引くことは楽しいけれど、怖いことでもあります。みなさんの後輩のために、そして、みなさんがまた集える場やみなさんが誇りとできる場を構築できるよう、これからも私たち教員一同、次のゴールに向かってre-setします。みなさんも、社会人として、どうぞ私たちを応援してください。

この大学、この学部、私たち教員のいるこの学科を選んでくれて本当に有難うございました。